

授業評価アンケートに御協力いただきありがとうございました。
自由記述のコメントについて、お答えします。

【刑事学総論・展開講義(いじめと法)・展開講義(刑事法特論1) 共通】

①授業の録音データとレポート・ミニレポート課題の提供時期について <維持します>

今学期は、授業の録音データとレポート・ミニレポート課題を原則として授業日の4週間前に提供しました。

受講生からは、自身のスケジュールにあわせて、授業を聴いたり、レポート・ミニレポートに取り組んだりできるとして、大変好評でした。

秋学期の刑事学各論の授業の録音は完了しております。また、展開講義(刑事法特論2)の授業の録音もかなり進んでおります。そのため、秋学期も春学期と同じように原則として授業日の4週間前に録音データとレポート・ミニレポート課題を提供する予定です。

②ミニレポートとフィードバックについて <維持します>

ミニレポートとして授業内容に対する質問を書いてもらうことは、質問を考えながら録音データを聴くことにつながるなどとして、好評でした。

また、質問に対してフィードバックで回答するという方式も、授業で触れられなかった内容を知ることができるなどとして、大変好評でした。

フィードバックの際に自身の質問が取り上げられて、学習へのモチベーションが上がったと声もたくさんいただきました。一方で、フィードバックの時間を一定程度に抑える観点から、全ての受講生の質問を取り上げることができず、申し訳ない気持ちでいっぱいです。

少なからぬ受講生に推測していただいたように、教員としては負担が比較的大きかったことは事実です。しかし、私としては、受講生がどのような点に疑問を持つのか知ることができ、大変有益でした。どの授業も、予想以上に多くの受講生にフィードバックを聴いていただき、教員としてもやりがいがありました。

秋学期の刑事学各論についても、同様の方式とする予定です。

③録音データとレジユメの提供方法について <改善します>

今学期は、LMSの添付資料として録音データを提供し、研究室ウェブサイトにおいてレジユメを提供しました。

まず、録音データをダウンロードできるようにしていたことについては、オフラインでも聴取できるとして好評でした。

また、レジユメについて、当初、編集ができないようにPDFファイルを設定していましたが、ファイルに直接書き込みたいという御要望を受けて、4月には、ファイルの編集ができるように設定をし直して提供しました。

一方、録音データはDropboxで提供してほしい、レジユメはLMSで提供してほしいとの意見をたくさんいただきました。

そこで、今学期終盤のミニレポートに対するフィードバックから、録音データをDropboxで提供し、レジユメはLMSの教材に添付して提供することとしました(レジユメをそのままOnenoteに転載しようとしてもうまくいかないとの情報もいただきました。権限パスワードは上述のように掛けていなかったため、閲覧パスワードが原因ではないかと思われます。今後は、

閲覧パスワードも掛けなくなりますので、今後はこの点についても改善すると思われま

実は、LMS の教材の資料編集の画面は大変不安定で、困っていました。当方としても、Dropbox のほうが提供しやすいので、秋学期からは、録音データを Dropbox で提供し、レジュメは LMS の教材に添付して提供する予定です。

④LMS の教材の見やすさについて <改善します>

LMS の教材の数が多く、見づらいとの意見をいただきました。

LMS のラベル機能を使用し、「締め切りが最も近いミニレポート」と表示するなどして、見やすくするよう努めていましたが、表示される教材の数が多く、見づらかったことは否めませんでした。

そこで、秋学期からは、ミニレポートの提出締切ごとに教材をできる限りまとめて提供することで、表示される教材の数を減らすことにしました。

具体的には、例えば、「10 月 25 日締切のミニレポート」というラベルの中に、「第 1 回目(9 月 27 日分)～第 4 回目(10 月 18 日分)の授業の録音データとレジュメ」という形で、4 回分を 1 つの教材にまとめて表示します。もちろん、各回の録音データは、ファイルを分け、それぞれを Dropbox からダウンロードいただくようにします(例えば、上の例では、4 つの録音データを提供しますので、1 つの教材において Dropbox のリンクを 4 つお伝えすることになります)。

既に、秋学期の刑事学各論のページは用意ができていますので、履修しておられる方はぜひ一度ご覧ください。

⑤倍速再生について <説明します>

授業の録音データを倍速再生できないと誤解しておられる方が少なくなかったようです。

授業の録音データは、倍速で聴くことができるようにすることを主たる目的として、Dropbox と同じように、LMS からダウンロードできるように設定していました。

この点については、ダウンロードして倍速で聴く方法について、授業評価アンケート実施中に紹介いたしました。

倍速で聴くことができるということは、遠隔授業の大きなメリットだと思います。私も 25 年ほど前の学生時代に、司法試験の予備校の通信講座で配布されるカセットテープを倍速再生で聴いて勉強していました(音の高さも変えることができる倍速再生の機器が安く買ったので、CD よりもカセットテープを使っている人が多かったのです)。時間短縮のために、倍速再生をぜひ活用してください。

なお、Dropbox などの倍速再生機能は、早聴きすると音が高くなり、遅聴きすると音が低くなってしまいます。再生の速さに応じて音の高さを調整するアプリもあると思います。そうしたアプリを使っていただくと、倍速再生してもキンキンと高い声で聴かずに済みますので、一度試してみてください。

⑥レポートの書式等について <説明します>

レポートの書式等が比較的細かく指定されている理由について質問がありました。

書式等を細かく指定するのは、主に以下の 2 つの理由によります。

第一に、就職活動や就職後の仕事をする際に文書の書式等を指定されることは少なくありません。書式等の設定に慣れていただくことが有益であると考えているためです。

第二に、大量のレポートを同じ基準を保ちながらスムーズに採点したいと考えているためです。これまでに提出されたレポートにおいては、(1)1 ページに 200 字程度しか記載できない

特大のフォントを利用する方がおられたり、(2)1 ページに 10 行ほどしか記載できない広い行間で作成される方がおられたり、(3)薄いグレーやピンクの文字を利用する方がおられたりするなど、様々な書式等で提出され、同じ基準でスムーズに採点することが難しいことも少なくありませんでした。そこで、できる限り、書式等を統一したいと考えました。

書式等を比較的細かく指定することに疑問を感じられた受講生も少なくなかったようですので、秋学期以降の授業では、レポート課題や注意事項を記した PDF ファイルにその理由も付記して説明することにしました。

⑦ミニレポートの採点基準について <説明します>

ミニレポートの採点基準について質問がありました。

ミニレポートは、学習のペースメーカーと位置付けており、受講生が書く質問の 1 つ 1 つに意味があると考えています。そのため、質問内容に応じて点数を変えることはできる限りすべきでないと考え、採点しました。

そのため、基本的には、満点で採点してきました(毎回お知らせしてきた採点状況から推測していただけたのではないかと思います)。

ただ、授業の中で、詳しく説明した点について、そのことを尋ねる質問を書かれた場合、その授業を聴いておられなかったのではないかと推認されることもあって、満点としなかったこともありました。

また、授業の録音データにアクセスせず、ミニレポートを提出した場合については、原則として 0 点としました。残念ながら、注意喚起をした後も、毎回録音データにアクセスせずにミニレポートを提出する受講生が一定数いたことは遺憾というほかありません。

一方、多くの受講生は、制限字数いっぱいまで質問を書いていただくなど、毎回、熱心に取り組んでいただいたと感じています。教員としては、本当にありがたい限りです。熱心に取り組んでいただいたみなさんのおかげで、フィードバックが充実したものとなり、そのフィードバックを聴いて、より質問が洗練される、というよい循環ができたと思います。感謝申し上げます。

【刑事学総論】

⑧授業時間の長さについて <改善します>

今学期は、2 時間を超える授業が 1 回ありました。第 12 講と第 13 講の部分の授業時間が相当短いため、全体としては、バランスが取れると考えていました。

また、遠隔授業で質が下がることのないよう、むしろ、例年であれば時間の関係で詳しく話すことができないところも、できる限り丁寧に話そうと考えて授業をしてきました。

しかも、多くの受講生がおそらく一定程度の倍速再生で聴いておられると勘違いしており、1 回あたり 2 時間を超えても、実際の聴取時間は 90 分に収まると考えておりました。

ところが、⑤との関係で、倍速再生をできないと考えておられた受講生が少なくなかったとのことで、大変申し訳ないことをしたと反省しています。

今後は、遠隔授業であっても、90 分を大幅に超過するような授業とならないようにいたします。

【展開講義(いじめと法)】

⑨レジュメのページ数について <説明します>

レジュメのページ数が 200 ページを超えており、多いとの御意見をいただきました。

実は、この点は、授業準備を2020年秋に行った際に最も悩んだ点です。

レジュメをご覧いただくと、ケースのほかに紙幅をとっているのは、法律や各指針を摘示した部分です。教員としては、条文を見ていただくとは絶対に必要であると考えています。また、この科目で取り上げる法律や各指針は、教育系の特殊な六法以外には掲載されていないものも多く、しかも、「いじめの防止等のための基本的な方針」と「いじめの重大事態の調査に関するガイドライン」は相当のページ数があり、授業の中でその都度それらの指針の該当箇所を探して読んでもらうのは大変な手間だと感じました。実際に、条文を掲載しないレジュメを作成して授業のリハーサルをしましたが、授業の受け手の立場で想像したときに、好ましいレジュメのスタイルとは言い難いと判断せざるを得ませんでした。

そのため、悩んだ末に、科目の特殊性ということでページ数が多いのはやむを得ないと判断し、条文については関係するものをその都度掲載することにしました。

来年度以降は、シラバスにおおよそのページ数を記載するとともに、第1回目の授業でレジュメが多くなっている理由について詳しく説明するようにしたいと考えています。

皆さんの御意見を参考に授業をよりよいものにしていきたいと思っております。